

新入生の皆さんへ

図書館長 樋口 穰



新しく京都外国語大学・短期大学の学生になられた皆さん、おめでとうございます。世界中を混乱に陥れた新型コロナ・ウイルスの影響下、通常とは全く違う環境を強いられた皆さんの苦労はいかばかりだったか、また、その艱苦を乗り越えて今日の日を迎えられた喜びは期待通りであったろうか、と、さまざまな思いがわき上がってきます。

昨年度、新入生の皆さんへのメッセージを書いていたのは、ちょうど新型コロナ・ウイルスにたいする予防措置として、大学当局が学生の入構禁止措置を実施した頃でした。卒業式も入学式もなく、学生の姿のない深閑とした構内で、満開の桜が事態の異常さを際立たせていたことを思い出します。もう、ずいぶん前のことのように感じますが、今この原稿を書いている2月上旬も、京都府下には緊急事態宣言が発出されたままです。

未曾有の異常事態下で図書館は、大学アカデミズムの砦としてできる限りのサービスを維持・提供しようと、職員一丸となって取り組んで参りました。事前予約制による閲覧室利用、また、利用者職員双方の安全管理など、危機管理も含めた貴重な経験を得ることもできました。もっとも、初めて行なう施策のなかには、実験的なレベルで実施せざるを得なかったケースもありました。そのため、学生、教職員の利用者の皆さんに、ご不便を我慢して戴くことにもなりました。至らなかつた点については、精査し、今後活かして行きたいと考えています。入構禁止措置やリモート講義の実施される中、図書の貸し出しに威力を発揮したのは、やはりWebによる蔵書検索でした。利用者はWebで図書館の蔵書を検索し、メールで貸し出しを依頼、必要な図書を郵送で受け取り、郵送での返却も可能、という方法は今後生きる経験となりました。

現在、Webの世界では、国公立をはじめとした博物館や図書館から、デジタル・アーカイブによる資料公開が進みつつあります。居なが

らにして芸術、文化遺産や貴重な書籍を閲覧し、ダウンロードできるというのは、凄い時代になったものだと思います。しかし、一方で、コンピュータやWebを最高のツールとして信頼しすぎるのも考え物です。

たとえばWeb上で何かを調べたいとき、検索をかけます。そうすると、キーワードのあげ方次第では、比較的短時間に必要な資料に行き着くかも知れません。キーワードの選択が下手だと、何万件ものヒットがあり、リストを途中で見るだけで疲れてしまうと言う可能性もあります。一見、前者には欠点が無いように見えます。でも、キーワードを上手に挙げた場合、ヒットする資料が絞られる分、もしかしたらキーワードに掛からなかったけれど必要だった素晴らしい資料との出会いの機会を奪われていたかも知れません。後者の場合、膨大なリストを短時間で手に入れることができるのは効率的ですが、そのリストの資料のどれが自分に必要なのか、ひとつひとつあたっていくのは骨が折れます。コンピュータは、面倒な単純作業の時間を短縮するツールとしてはよい助手になりますが、見逃した資料はないか再度検索方法を変えたり、リストのひとつひとつを確認したりと、その後の労力は却って増えてしまう結果をもたらすこともあるのです。しかも、論文などで行き詰まっている時ほど検索もうまく行かないものです。そんなときこそ、図書館に来てください。自分に関係ないと思って居た分類の書棚に、あれ？これは！というような本がひょいひょいと見付かったりします。ぶらりと訪れて、並んだ本の背を漫然と眺めているだけで、本のタイトルがヒントになって解決の糸口が見えるということもあります。本の呼び声が聞こえたなら、それは素敵な出会いの機会を得たということなのです。

職員、蔵書一同、皆さんのご利用をお待ちしております。

ひぐち じょう (教授・日本文化史)